

とよなか

第 92 号

平成 27 年 1 月 17 日

発行

日本ボーイスカウト大阪連盟

豊中地区

「新年を迎えて」

豊中地区 地区委員長

前田 栄子

新しい年がとてもきれいな初日の出で始まりました。その後の雪景色も本当に綺麗でした。

今年は 23WSJ が日本で開催されます。昨年、スカウトの先輩から「23WSJ は日本で開催させることでたくさんのスカウトが参加でき又、大会に参加していなくても地区で、団で世界中のスカウトと交流できるんですよ！

こんな素晴らしい活動に是非多くのスカウトに夢を与えてあげることが指導者の努めではないか」と教えていただきました。



私たち指導者もスカウトもこのことをどう楽しむかが大事なことです。遊びを押し付けることはスカウトにとって楽しいプログラムではありませんが、たくさんのチャンス을 投げかけてあげることが大事なことです。今年一年で豊中地区は豊能地区と再編し新たな地区が誕生いたします。

再編してもスカウトの活動に変わりはありませんが、この一年は豊中地区が 40 年間歩んできた奇跡を振り返り、スカウト・指導者の強化、団の強化に力を注ぎ、再編に望みたいと考えております。

この一年もご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。

弥 栄

地区の主な活動（平成26年5月～平成26年11月）

●豊中地区 VS 技能大会 平成26年6月14日(土)～15日(日) キャンプおおさか



大阪府枚方市にある大阪連盟専用の“キャンプおおさか”で晴天の中1泊2日でスカウト達はスカウトスキルを競い合いました。団の垣根を越えた、新たな交流もあり楽しい2日間でした。

●わっばるワークキャンプ 平成26年6月25日(水)～29日(日) 能勢町宿野 わっばる

豊中市の施設で研修所やジャンボリーなどの事前キャンプでもお世話になっています。例年ワークキャンプが開催され、ガールスカウトや野外活動協会などの各団体も参加しています。豊中地区からも参加しました。今年は大阪連盟の他地区の方も参加していただき、またVSスカウトの参加もありました。



●2014年オールラウンドテーブル 平成26年8月31日(日) 服部緑地 バーベキュー広場



今年のオールラウンドテーブルはバーベキューを食べながら、普段のラウンドテーブルとは違い、部門関係なく楽しく懇親しました。また夏キャンプ、新制服のサンプルなどの紹介などもあり楽しい時間でした。

●VS スカウトフォーラム 平成26年9月23日(火・祝) 青年の家 いぶき

メインテーマ” Crating Better World (よりよい世界を創ろう) ”

サブテーマ

- 1) 環境被害や自然災害に備える
- 2) 第23回世界ワールドジャンボリー
- 3) スカウティングとテクノロジー
- 4) ちかいとおきて

について3グループに分かれて意見を出し合い、グループごとに発表しました。

豊中地区 VS スカウト提言

「自然災害や環境に対する備えの方法に関する技能章を取得することで得た知識を全世界

に発信し、自然災害や環境についての意識を高める。」

「スカウティングにおけるテクノロジーの利用は、全てを委ねる事をせず、自分の能力・技術のサポートの一つの手段として利用する。」



また基調講演は豊中3団0Bの新留さんの
“海外のマラソンに参加して (スカウト活動が自分に与えた影響)”
は素晴らしい内容でした。

●地区BS RT主催 BS 班長訓練 平成26年10月26日(日) 箕面教学の森

テーマ：創意工夫

目標：班長の役割・班集会の仕方を理解し、コミュニケーション力を高める



天候に恵まれ、スカウト30名の参加で炊事をテーマに“班長の役割”・“班集会”などについて理解を深め、その後各班のメンバーを決めその班で役割分担を行い、“グルメ決定戦(隊集会)”に向けてGB訓練(GB役)とスキル訓練(班員役)と別れて実習。その後“グルメ決定戦(隊集会)”に向けて班集会を行い、隊集会実施。

各班のメニューはメイン食材とサブ食材とを分けて配給し

“牛丼”・“筑前煮”・“豚丼”・“チャーハン”・親子丼 “・”肉じゃが “などを各班ごとで考え、野外炊事を行いました。また隊集会後には各班で振り返り”評価・反省”を行いました。

今回の訓練で多くの事を学んでくれました。



●とよなか市民環境展 2014 平成26年11月21日(金)22日(土) 豊島体育館

今年も“良い環境”・“悪い環境”を募集し
展示を行い、来場者の方々に投票していただきました。



●地区全体行事“WAっしょい！ TOYONAKA Scouting Festa” 平成26年11月24日(月・祝) 豊中市全体・大池小

大池小をメイン会場に豊中市内で開催
豊中地区に所属しているBVS～RS、指導者を含む成人支援者、見学者が参加しました。
天候に恵まれ楽しい一日でした。



参加スカウトの感想

派遣名：第13回韓日スカウトフォーラム・第4回韓国インターナショナルパトロールジャンボリー

豊中第12団ベンチャー隊 村上 真央

日程：平成26年7月25日(金)～8月6日(水)

ホームステイ＝平成26年7月30日～8月1日 ソウル特別市内

ジャンボリー＝平成26年8月1日～6日 Gangchangnaru公園(韓国・尚州)

参加者：日本派遣団20名(リーダー2名 スカウト18名)

派遣隊の目的：日本と韓国のスカウトが相互の国や文化を深く理解しあうこと

「水」が貴重であることや、「水質汚染」について学び自然環境保護を
考えること

フォーラムやジャンボリーを楽しみ多くの友を見つけること

英語によるコミュニケーションに挑戦すること

自分の健康・生活管理ができること

自分の目標を立てること 自分の目標：外国人と話すという行為

にいつも恐れを成してしまうので、国籍や言葉の壁を越えて積極的に話す
いつも見慣れないものに挑戦しないので何事にも挑戦する



○KSA-SAJ Youth Forum 平成26年7月27日～30日

空港に韓国連盟の方が迎えに来てくださり、会場では韓国スカウトが拍手で出迎えてくれ、嬉しさでいっぱいになった。私のフォーラムのパートナーであるハスンがIDカードやフォーラムTシャツを笑顔で渡してくれ、ますますフォーラムが楽しみになった。私のフォーラムの班の日本人とは話したことがなかったので緊張したがすぐに打ち解けることができ、安心した。私は、フォーラム中班長としての自覚をあまり持たず同じ班のジフンに多くの迷惑をかけてしまったことを後悔している。夕食は辛い物が多く、辛さのレベルも日本とは桁違いであり、韓国スカウトが顔色一つ変えず食べるのを見て文化の違いを感じた。

班でのディスカッションでは、初回は国に分かれて話し合いその内容を合わせたものを全体で発表した。最後のディスカッションでは国ごとに分けることなく話し合えたことを大変嬉しく思う。国で分かれて話し合いその内容を発表し合った際にその内容がほぼ同じであったことも嬉しく思った。しかし、私の英語力が高くなかったことや、韓国人と日本人の英語の訛りの違いにより意思の疎通にはとても苦労した。韓国スカウトは皆英語力が多く多くのことを伝えてくれたり、質問してくれたりしたが、自分の英語力の低さによって聞き取ることができなかったことは非常に悔しく思う。また、韓国スカウトは何事にも意欲が高く、私達の言葉をすぐに真似して使ったり、日本語での言い方を質問してくれたりと積極的であった。二日目であったシティハイクでは韓国の歴史的な建物を観覧し、そのハイクでは私は多くの韓国スカウトと仲良くなれ、班内の絆も深まったと感じた。観覧した建物はどれも日本のものにも似ており親しみを感じた。国宝にも指定されている慶会樓【キョンフェル】を特別に観覧することができ非常に貴重な経験をできたと思う。街の観光では各ポイントでソウルの街を満喫することが出来た。WSEPというプログラムではさまざまなゲームを通じ環境について学ぶことができ良い経験であったと思う。インターナショナルナイトでは日本派遣団の女子はソーラン節、男子はAKB48の恋するフォーチュンクッキーを披露した。どちらの発表もみな楽しんでくれたと感じた。韓国スカウトの披露してくれたダンスやテコンドーはどれもクオリティーが高く、ダンスはみんな参加してとても楽しいひと時を過ごした。閉会式の際にスタッフの方たちが作成してくれたフォトムービーを見て楽しかったフォーラムの終了をとっても悲しく思った。

フォーラム中の生活面ではやはり食事に苦労した。韓国での食事は基本的に辛いものが多く辛い物が好きな私でも苦労した。さらに初日シャワーの水量が徐々に減り止まってしまったのは悲しかった。韓国スカウトは深夜までテンションが高く最終日は深夜3時ごろまで語り合ったほどだ。

フォーラムを通じて、自身の英語力がもっと高ければこのフォーラムをもっと楽しむことが出来たと思う。しかし、今回は積極的に話すことが出来たと思う。班に英語力が高いメンバーがいたため頼ってしまうこともあったが日韓スカウトフォーラムに比べるとかなりの成長だといえる。



○Homestay

平成26年7月30日～8月1日

私たちのホストファミリーはヒジェという14歳の女の子の家だった。ホストファミリーと対面した後、荷物をホストマザーに預けヒジェと出かけることにした。途中でヒジェの友達の子も合流し、おせき班の西尾さんと4人でショッピングに出かけた。初めに洋服を購入し、昼食はマクドナルドで摂った。久々の辛い食べ物にほっとした。化粧品を購入したいという私たちの要望に応じて様々なショップを巡ってくれた。夜はヒジェのおじさんが経営する日本料理店に連れて行ってくださった。おじさんの奥さんが日本人らしくおじさんは日本語が堪能で、いただいたうどんも日本のもの以上においしかった。次の日は私たちの要望でロッテワールドに出かけることになった。ロッテワールドでアトラクションに乗ろうとした瞬間に豪雨に合い乗ることが出来なかった。韓国では豪雨にあうことがあまりないらしく“today is special day!!”と言われてしまった。ロッテワールド内にある民族博物館に行くことになった。恐竜が存在した時代から日本が支配していた時代まで展示されており、ヒジェたちが英語で解説してくれたため満喫することが出来た。伝統的なゲームを実体験することもでき貴重な経験になった。ただ、日本語が書かれた風景の展示があったため尋ねると、“日本に支配されていた時代だよ”と伝えられ心がとても痛んだ。私たちが“sorry”と話すと、“歴史の話”と答えてくれ、私にとってその答えは救いであった。しかし日本が韓国を支配していたことは変わることのない事実なのだと深く実感した。ロッテワールドをあとにし、またショッピングに出かけた。人生初のチマチョゴリでプリクラを撮ったり、韓国の歴史を勉強したりと韓国を満喫することが出来た。人生初のホームステイであったため反省しなければならないことも多々ある。一つはホストファミリーとのコミュニケーションである。あまり会話を交わすことが出来なかったことや、部屋では携帯に夢中になってしまったこと、日本人同士の会話ばかりを楽しんでしまったことだ。このようなことを行わないように気を付けていたが、緊張や日本人と一緒にいたことで甘えてしまったと思う。しかし、韓国のコンギノリ (공기놀이) というゲームを通じてステイ先のお兄さんと良い交流をすることもできた。

この経験を活かし今後につなげていきたいと思う。

○4th International Patrol Jamboree 平成26年8月1日～6日

このジャンボリーは外国人が1～4人に分かれ韓国の隊に入るとともに過ごすという今までにはない経験であった。私はホームステイと同じく西尾さんとホストファミリーのいる隊に配属されたが諸事情により途中から日本人一人となりとても良い経験が出来た。

全体を通して驚いたことといえば韓国スカウトは終始テンションがとても高いということだ。特に開会式などのセレモニーでのテンションが日本のものとは全く違う。圧倒された。もう一つ驚いたことは韓国のジャンボリーは支給品が多いことだ。ネックチーフ、ハンドブックはもちろんジャンボリーTシャツ、チーフリング、そしてアクティビティを達成するとシリコンの小さなバッジをもらうことができ、企業からの試供品もあり日本とのボーイスカウトの立ち位置の違いを感じた。

ジャンボリーの生活は苦勞することが多かった。まず一つが、食事である。

私はキャンプといえばカレー！という考えなので韓国でもカレーを作るのだろうと楽しみにしていた。しかし、予想は裏切られ、毎日キムチはもちろんチゲやチヂミといった韓国料理であったのである。辛い物が苦手なスカウトは苦勞したと思う。正直、カレーが食べられなかったことは残念だが、もともと韓国料理が好きで私にとってはとても嬉しかった。しかし調理の手伝いができず、ただ食べるだけとなってしまい申し訳ない気持ちでいっぱいだった。次に苦勞したことは就寝時間だ。ハンドブックには22時就寝と書かれているが22時に寝る人はいないだろう、だいたい0時にみんな寝るかな。と考え0時頃に自分のテントに戻ってみるとだれもおらず、2時ごろになってスカウトが帰宅し、次の日に響かないのかなと心配していたが次の日寝不足だったのは私だけであった。たまたま3時ごろサイト内を歩いたさいにも、多くのスカウトが外に出ておりとても驚いた。韓国人のタフさはただただ尊敬するだけであった。

アクティビティではさまざまな経験をすることができた。同じダンスを5回連続で練習したり、ロープワークを練習したりアーチェリーも経験することが出来た。他にもサバイバルゲームやパラグライダーのようなとてもそそられる企画が満載であった。私が経験した中で一番楽しかったものはサイクリングだ。開催地が川の近くであったためダムがあり、そのそばを自転車で下るのは見事なものであった。

ジャンボリーにはフォーラム参加者の多くが参加しており、再会を果たせたことにとても嬉しく思った。何度もフォーラムメンバーで合流し、閉会式でも共に過ごせたことは一生忘れないだろう。ジャンボリーではフォーラム参加者である韓国スカウトの違った一面を見ることができ面白かった。

このジャンボリーを通して忘れられない経験が2つある。1つは初日の深夜に日本人スカウト数名で清掃活動を行ったことだ。初日の時点ですでにゴミ置き場は乱れ、会場のあちこちにゴミが散乱している状態であった。そのことが気になった私たちは会場のゴミ拾いグループとゴミ置き場を整理するグループに分かれ清掃活動を行うことにした。私は、金兵さんと藤川さんと中村さんとゴミ置き場の清掃を行うことにした。缶を捨てる場所にペットボトルや鶏の骨が捨ててあったり、紙のところに瓶が捨ててあったりとひどい有り様であった。私たちがゴミ拾いをしている間、何度も多くのスカウトが通ったが、なかなか興味を持ってくれる人はおらず、中には適当な場所にゴミを捨てていくスカウトもいたことがとても残念であった。しかし、数人のリーダーが「何をしているの？」と声をかけてくれ、清掃活動行っていると答えると必ず、「なぜ？」と聞かれた。ただ気になったからだと告げると、ひどく感心してくれバッジをわざわざくれた方もいた。深夜1時を過ぎ、ゴミ拾い



グループがなかなか帰ってこないため向こうのグループはもう戻って寝てしまったのだろうと考え始めていたところに、もう一つのグループが大量のゴミ袋とともに戻ってきてくれたのである。2時には終了させることを目標にその場にいた全員で黙々とゴミを整理した。副長もゴミ拾いグループの一員として参加して下さった。

もう一つの忘れられない経験は、インターナショナルナイトで過呼吸に見舞われ救急車で搬送されたことだ。たくさんの方に迷惑をかけてしまい、今後二度とこのようなことにならないようにしたい。

初めての海外でのジャンボリーの参加は多くの失敗もあったが、そのことすべてが今後の自分にとって良い経験になるであろう。日本人だけで固まって過ごすのではなく韓国スカウトの隊に数名で過ごしたからこそ得られたものも多くある。だからこのジャンボリーに参加できてよかったと思う。

○International Youth Forum 平成26年8月3日

私はインターナショナルパトロールジャンボリーの期間中に行われた国際ユースフォーラムに参加した。3日と5日に分かれ計40名ほどの人が参加していたと思う。私は3日に行われたものに参加し、日本人は1名、韓国人以外の外国人が5名ほどその他約7割が韓国人という状況で初めは参正直加したことを後悔するほどであった。しかし、韓日ユースフォーラムで知りあったジェソンがいたり、ジャンボリーで知り合った韓国の友人がいたり、友だちが案外多く、さらに日本語が話せるスタッフの方もおられ、とても楽しく過ごすことができた。

フォーラムでは尚州博物館へ行った。ここでは、尚州の歴史の展示があり、同じグループの友達が英語で解説してくれ苦勞なく閲覧することができた。しかし、韓国の歴史を学ぶということは、日本が韓国にしてきたことも直視しなければならない。その博物館にあった展示の1つに、竹やりや石しか持っていない韓国人に銃などをもった日本人が攻撃し、多くの韓国人が倒れこんでいるミニチュアがあった。「これはサンジュ(当時は新羅)に日本人が攻めてきたときの展示です。」日本人が一人しかいない状況でのこの説明はとてもつらかった。しかしフォーラム参加者の一人の韓国人が「今の日本はとても素敵な国だと思うよ。」とフォローしてくれ、その言葉にかなり救われた。しかし、いまが良いからと言って昔に日本が韓国に行ったことは忘れてはならないと思う。

そして隣にある建物で様々な遊びなどの体験をした後、ステージの上でグループごとに韓国の伝統的な遊びを発表することになった。私たちのグループは一番恥ずかしいゲーム(名前がわからない※右下写真参照)を発表することになり女子は特に嫌がっていた。他のグループの発表を見ていると日本と同じようなゲームも多くあり驚いた。

このフォーラムに参加したことで尚州の歴史について学べ、韓国の伝統的な遊びも体験することができ、大変良い経験となった。日本人が一人しかいないという状況の中で過ごす度胸もついたと思う。そして何より、韓国人の一人が言ってくれた言葉が一番うれしかった。

○目標に対する成果

目標 : 外国人と話すという行為にいつも恐れを成してしまうので、国籍や言葉の壁を越えて積極的に話す
いつも見慣れないものに挑戦しないので何事にも挑戦する

成果 : まず、一つ目の目標に対してはかなり達成できたと思う。フォーラムでは人を頼ってしまうことがたびたびあったがホームステイや、特にジャンボリーでは日本人一人であったため積極的に話すことができ満足している。

二つ目の目標に関してもかなり達成できたといえる。韓国では食べたことのない食べ物や飲み物に積極的にチャレンジし、また自らジャンボリー中の国際ユースフォーラムにも参加することができ自身でも驚くほど積極的に活動できたと思う。

○全体を通しての感想

初の海外派遣ということもあり、完璧というわけにはいかないが、かなり満足のいくものになったと感じている。しかし、自身の体調管理が行えていなかったこと、他人の精神状態まで把握できなかったことが悔やまれる。英語圏でない韓国で自身も母国語でない英語のみでしかコミュニケーションをとれないという

過酷な状況で、大きな事故や病気もなく帰れたことは本当によかったと思う。13日間という長い時間を普段とは違う状況下で無事に帰れたのは、もちろんスカウトのみんなと団長、副長のおかげだ。今回の参加スカウトのだれが欠けても今回の派遣は成功しなかったことと思う。それほど今回のメンバーは皆その人にしかできない良い個性を持っていたと思う。

今、日本と韓国はあまり良いとは言えない関係であり、韓国に行く前は不安があったが、実際行ってみると韓国の方々は本当に良い方ばかりで行く前に不安に思ったことをとても恥ずかしく思った。今後、韓国と日本の関係がより良好になることを願う。

最後にこの派遣に参加するにあたって、お世話になった家族、リーダーの皆様、韓国でお世話になった方々、鈴木団長、鈴木副長、スカウトのみんなに心より感謝致します。 弥栄。



参加スカウトの感想

富士特別野営



豊中 6 団 ベンチャー隊 津嶋 武
8 月の 14 日～20 日までの間
山中野営場で富士特別野営に行った。
そのキャンプの中で楽しかった事は
ジャンボリーみたいに色々な都道府
県からスカウトが参加して色々なキ
ャンピング法を学んだり教えたり出
来た事やモールス信号などいつもの
活動の中では中々遣らない事が体験
出来た事。

不安だった事は、自分が班長に
なって班の皆をちゃんと引っ張って
いけるかが不安だったけど、班の
メンバーのレベルも高くどうにか
キャンプを無事終える事が出来て
良かった。しんどかった事はタイム

スケジュールが細かく決まっていてご飯を食べる時間が無かった事や一隊一班の班長をしていて何かをすると時に一番最初に遣らなければいけなかった事。

この富士特別野営では色々な事を学んでスカウトとしてたくさんの知識を吸収出来て良かった、けれど技能章をタスキで持っている人やもう富士章を取っている人がいて自分よりも上の人はまだまいるのでそんな人に少しでも近づくたいです。

富士特別野営 2014 に参加して

豊中 22 団 ベンチャー隊 品川 遼太

2014 年の夏に富士特別野営という富士の麓にある
山中野営場で行われた日本連盟主催の長期キャンプに
参加しました。参加前プログラム内容がほとんど公表
されず遠方で何をするのかほとんど知らないまま、新しい
ことへの期待と自分の技能が本当に通用するののかという
不安が入り混じり、ドキドキしていました。キャンプ前日、
満席の夜行バスで御殿場に向かいましたが、バスの中は
とても蒸し暑くて全然眠れずに初日から寝不足になって
しまいました。

現地に行ってから班分けが発表されたのですが、その場
で初めて会ったスカウト達と 1 週間やっていけるのか、と
とても不安でしたが、まさかの同じ地区のスカウトが一人同
じ班に入り、とても安心しました。キャンプが始まり驚い
た事や初めての事は沢山ありましたが、特に印象深かった
事が 2 つあります。



1 つ目は、イスやテーブルが何もなく、食器置きや椅子付テーブルなどを作れと言わんばかりに竹だけが置いてあったことです。しかし、毎日が忙しく作る暇がなく 3 日間テーブルがない生活を送ってしまいましたが、とうとう「今日中に作れ」と隊長に言われてしまいました。晩御飯や会議もあるので役割分担をして 1 時間くらいの間になんとか完成しました。椅子付テーブルを作ったのは初めてだったので座るときは少し怖かったけれど、みんな座ることができました。もう 1 つは 1 泊ハイキングという自分からすると信じられないようなプログラムでした。まず自分たちで筏を作り山中湖を縦断し、その後 2 日かけて山中湖の周りの山を 20 km 以上縦走するといったものでした。ハイキングや登山はもともと苦手で、整備されていないような道や、終わりが見えない階段などが多数あり、ただでさえ決して楽とは言えないキャンプ生活の最後に行われたので、2 つ目の山くらいから一步一步が重く、班のみんなに励ましてもらいながらなんとか歩き切りました。キャンプが終わり自分の体力の無さを痛感しました。これからは少しずつ体力をつけたいと思います。

『富士特別野営に参加して』

豊中第2団VS隊 下村亮太

今年夏、長いキャンプがあった。楽しいだけのキャンプでなく辛いこともあった。

いつものキャンプと違う点。1つ目、テントが違う。家型はBSの時使っているのである程度対応できるが今回使ったテントは家型でもなくドームでもないジャンボリーテントだった。2つ目、全日程分として渡された薪の量が1束。わっぱるに置いている1束と同じ量だった。

3つ目、技能章をいっぱいつけている人がいる。技能章のタスキをつけている人が数人いた。4つ目、キャンプファイヤーの司会がいない。いつものキャンプファイヤーは、司会がまわしていると思うが、富士野営のキャンプファイヤーでは司会が存在しなかった。各班に歌が指定されていて、その歌がうたわれると前に出るというかんじだった。

富士野営では、なんでも屋さんみたいになんでもできる人が何人もいて、自分はまだまだなんだなあと思う事が多かった。



スカウトの進歩

隼スカウト章取得状況 (平成26年4月～26年12月まで) (順不同)

植田 優父太	豊中 05	津嶋 武	豊中 06	品川 遼太	豊中 22
坂田 成実	豊中 12				

菊スカウト章取得状況 (平成26年4月～26年12月まで) (順不同)

高田 夕輝	豊中 22	西本 遼輔	豊中 22	吉川 舞	豊中 06
森嶋 知樹	豊中 02	和田 みちる	豊中 22	中西 大和	豊中 02
川口 諒	豊中 22				

技能章取得状況 (平成26年4月～26年12月まで) (順不同)

1、野営章

狩谷 将太	豊中 16	井上 大雅	豊中 03	品川 遼太	豊中 22
井上 竜也	豊中 03	水口 悟志	豊中 22	武田 昌憲	豊中 03
住友 昂志	豊中 22	眞嶋 奈央	豊中 03	川辺 隆彰	豊中 02
中内 辰之介	豊中 16	津嶋 武	豊中 06		

2、野営管理章

津嶋 武	豊中 06				
------	-------	--	--	--	--

3、救急章

津嶋 武	豊中 06	村上 真央	豊中 12	西本 遼輔	豊中 22
小間 天雅	豊中 14	坂田 成実	豊中 12	乗松 祐樹	豊中 14

5、水泳章

中西 大和	豊中 02	津嶋 武	豊中 06	萩原 輝	豊中 01
小間 天雅	豊中 14	天野 晴斗	豊中 01	今村 知愛	豊中 20
井上 竜也	豊中 03				

11、世界友情章

宮本 司	豊中 05				
------	-------	--	--	--	--

18、華道章

吉田 健人	豊中 01	天野 晴斗	豊中 01	天野 祥吾	豊中 01
田中 佑樹	豊中 02				

20、写真章

中西 正和	豊中 20				
-------	-------	--	--	--	--

36、消防章

森嶋 知樹 豊中 02
 鵜川 真妃 豊中 16
 川口 倅 豊中 22
 高浦 拓人 豊中 20
 尾崎 翔梧 豊中 16

小倉 悠 豊中 16
 石野 敬子 豊中 22
 杉山 裕紀 豊中 20
 久保 日菜子 豊中 16
 吉川 舞 豊中 06

安達 音香 豊中 22
 関野 文人 豊中 20
 林 風声 豊中 16
 袖川 美早紀 豊中 06
 高橋 良輔 豊中 16

43、釣り章

浅野 治謙 豊中 18

上坂 亮太 豊中 18

46、天文章

新田 真秀 豊中 02

荒木 彩来 豊中 04

55、ラジオ章

下村 亮太 豊中 02

56、わら工章

荻原 輝 豊中 01

堀井 海斗 豊中 01

荻原 翼 豊中 01

田中 佑樹 豊中 02

華道章	作品発表
-----	------

2014年10月26日 三島地区 華道章 講習・考査会

豊中第1団 吉田 健人

1回目より2回目のほうが、
自分としてはうまく出来たと思います



豊中第1団 天野 晴斗

芸能人が花を生ける番組を観て
難しそうだと思っていたが
やってみると意外に簡単で楽しかった。



豊中第1団 天野 祥吾

ひまわりを正面に向かせるなど
自然の形を生かしていけるのが難しかった。



豊中第2団 田中 佑樹

考査会当日、風邪でしんどかったですが、
華道の歴史や生け方を学べて奥が深いなと思いました。
作品は、後ろに葉やススキなど長いものを入れて全体的
にボリュームをつけました。



隼章取得の感想

私はベンチャーに入ってから隼章は取れないだろうし、取らないだろうなと思っていました。しかし、1年ぐらい特に意識もせずに毎回スカウト活動に参加していたら、細目の半分以上が自然と埋まっていた。そんな折、隊長から富士特別野営の参加を勧められました。とても興味があったのですが、参加資格が隼以上だったので、急いで取得する事になりました。そこで初めて隼を取得するという明確な目標ができたと思います。期限までに無事に隼章を取得し、富士特別野営に参加することができました。最初は章を取りたいと思っていなくても、急に取りたいと思う時が来るかもしれません。



そんな時に、普段の活動に積極的に参加していれば、気づけばあと一歩の所まで近づいているものじゃないかと思います。この調子でスカウト活動を続けて、富士章も取得していきたいと思います。

隼章取得の思い

最初は隼章を取れるか分かりませんでした、しかし隊長に「今年の夏に富士特別野営があるからそれに行ってみろ」と言われてその参加資格が隼章を取得している事だったのでその時まであまり取っていなかった技能章も頑張って取得して無事に隼になることが出来て良かった。

もしかしたら富士特別野営が無ければもう少し隼章取得が遅れていたかもしれない。

そして隼章を取得して富士章まであと少しなので頑張って富士章も取得したいです。



隼章を取得しての今後の抱負

豊中5団ベンチャー隊 植田 優父太

私は現在、富士章を目指しております。

隼取得後は奉仕や団行事他プロジェクトにも追われる中でその資格を得られる段階によりやく来ました。しかしその中で本当に富士章を取得して良いのかという葛藤が自分の中にあります。

今の自分には、まだ責任感や行動力にやや欠ける部分があるので、このまま社会に出ても信用を失ったり、大きな墓穴を掘ったりしないか不安になる事もあります。

でも、そんな事を言っているのは前へ進めません。今努めるべきは、そういった自分の課題に対して一つ一つを着実にこなしていくという当たり前の事をやり続けていく事だと思います。富士スカウトを目指す上で、口だけではなく日々の行動で示していく事に専念したいと思います。

そして富士章取得後も団やお世話になった方々



に対し、恩返しをしていきたいと思っております。又、同じ団の関係者には尊敬する隊長、リーダー、先輩が数多くおられます。そのような方々に近づけるようスキルを更に磨いていきたいと思っております。また自分が一番活動の中で力をいれてきた奉仕活動を幅広く行っていきたいです。例として、他団主催の野営訓練のお手伝いなどができたらやりたいと考えています。

隼になって世界へ

ボーイスカウト豊中12団 ベンチャー隊 坂田成実

高校3年生の夏が始まる前に、遅れながらも隼章をいただくことができ、とてもうれしく思っています。私は、ボーイ隊に所属していたころ、ただ漠然と「富士章をとりたいなあ。」と思っていました。そしてベンチャー隊に上進したとき突然富士章へのステップが1つ増え、その道はとても困難なものに見えました。そして実際に隼章への道のりで大変だったことは、進級とそれ以外の活動の両立です。私は、スカウティングにおいて進級することが全てではないと考えているので、進級に直結しないような活動にも積極的に参加し自ら運営などもしました。フォーラムや派遣に参加したり、活動の場を地区に広げたりととても充実したスカウティングを行ってきました。そこでふと、進級をすっかり忘れていた自分に気がつき、このままでは進級していない事が自分のこれからのスカウティングの幅が狭まってしまうと感じました。そこから自分が後回しにしていた、たくさんのレポートを書き、技能章を取得しました。ですが、それらの作業は以前よりも楽しくこなすことができました。



なぜなら地区グループの運営や大きな大会などに参加している間に、その方法をしっかり学ぶことができていたからです。私はスカウティングにおいての企画・計画・報告の仕組みの大切さを知り、そしてスカウティングの1つ1つの過程が互いに繋がって、スカウトが成長できるようになっているのだと感じました。

隼章を取得し、翼を得た今、私はこの作文を、北欧の国フィンランドにあるサンタクロースの町、ロヴァニエミで書いています。1年間の異国での留学生活、慣れないこともありますが、後悔のないように毎日を過ごしています。そしてここでも、

「I am a scout!」フィンランド語で「Minä olen partiolainen!」の言葉と、制服の大きなパワーを実感しています。学校で出来た初めての友達はなんとスカウトだったのです。きつとなにか磁石のような力が働いて引き寄せられたのだと思います。-30℃の雪の中、スカウトとして自分らしく、最高の1年を過ごすことが、今の私のモットーです。最後に、これまで応援し、支えてくださったみなさん、ありがとうございます。これからもよろしく願いいたします。

P.S. フィンランドよりブログ配信中です。スカウティングについても書いていますので、ぜひ見てください!

『ナルミフィンランド日記』 <http://narumi1997.hatenablog.com>

いちよん夏の活動ダイジェスト

ボーイ隊 夏季キャンプ 2014/8/7~9 氷ノ山
台風11号接近のため、14団お決まりの雨中登山となりました。



ビーバー隊 夏のビーバーたんけんたい 2014/7/20
箕面公園



カブ隊 夏季舎営 2014/7/19~21 大多府島
3回目の大多府島。リアカーで隊装備を運搬。



2014年10月25日 今年是新千里東町のキャンドルロードに参加しました。



豊中17団かわら版

【 2014-15年度 号外! 】



17回は、いつもみんなと一緒に活動するのが大好き!! (スキー合宿：ハチ高原スキー場)

＝ 団体制 ＝

- 団委員長：古川康治
BVS隊：井上隊長、スカウト 6名
CS隊：片岡隊長、スカウト 15名
BS隊：田中隊長、スカウト 14名
VS隊：高矢隊長、スカウト 3名
RV隊：澤田隊長、スカウト 3名

＝ 在住地区 ＝

- 緑丘地区、北緑丘地区、桜井谷地区
・ 小学校 (北緑丘、少路、野畑、桜井谷東)
・ 中学校 (第2、11, 14)

＝ 活動拠点 ＝

緑丘会館を主な集合場所、備品保管をしております。ビーバー隊、カブ隊は、清谷池公園で花壇整備、集会をします。



ボーイ隊は、豊中市近隣でのキャンプ、六甲山にハイキングに良く行きます。



＝ 主な活動予定 ＝

- 1月 凧上げ・餅つき、耐寒登山
2月 スキー訓練
3月 各隊集会、ハイキング
4月 募金活動、キャンプ
5月 隊集会
6月 蛍ハイク、キャンプ
7月 隊キャンプ
8月 団キャンプ

17団を見に来てね!!!

日本ボーイスカウト大阪連盟豊中地区

事務局 〒561-0858 豊中市服部西町 4-13-1

豊中市立青年の家 いぶき 内

地区協議会長 花木 一夫 地区委員長 前田 栄子